

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



甲状腺がん 手術編 022：心臓を掴まれる。

2017年4月5日（水）

甲状腺を全摘出しても、生きてはいけますが、
甲状腺が作り出す甲状腺ホルモンが全く無くなると、1か月くらいしか生きられません。

ですから、トキは甲状腺ホルモンを補う

チラーヂンSという薬を毎日、飲み続けなければなりません。一生です。

甲状腺ホルモンが不足すると、甲状腺がんが復活する恐れがあるため欠かせないのです。これを術後TSH抑制療法と言います。

ある意味、一生、続けなければならない『治療』でもあるのです。
また、同時に副甲状腺も無くなったので、カルシウムの取り込みが不可能になりました。

カルシウムが不足すると手足のしびれが起こります。現在、この状態に陥っているトキは、補うためにカルシウムを点滴で入れています。さらにカルシウム剤とカルシウムの製造を補うビタミンD剤を飲んでいますが、U先生曰く、

「しびれがなくなり、血液検査の結果で、カルシウムの量が安定してくれば退院が出来ます」。

体が慣れてくるのでしょうか？薬の量はゼロにはなりませんが、徐々に減らすことが出来るようになるそうです。さて、トキは今日も手首にある、点滴の針口を濡らさぬように、ビニール手袋で防水をして、シャワーを浴びます。シャワーを浴びる時は手術痕に貼ったテープを剥がします。トキは、その度に鏡を見て思います。

『グロイ』



この状態にU先生は、「引っ張っても、傷口が開くことはないですから」と、真面目な顔で冗談っぽく言います。この先、どのくらいで、どんな見た目になるのでしょうか？

2017年4月6日（木）

遂に点滴が外せました。順調のようですが、相変わらず、唾を飲み込むのさえ、喉が痛い状態ですが、

トキは、お粥を卒業して、ご飯に挑戦しました。これでもかと、よく噛んで噛んで、頑張って食べきりました。トキは、この状態で世に出ても大丈夫なのか？と思いましたが、U先生の診断により、4日後の10日に退院、その4日後の14日に外来と決まりました。この日に『病理』の検査結果もわかるのです。

さて、午後になって、トキの幼馴染が見舞いに来てくれました。彼は今回のことを全て知っている貴重な一人でもあります。彼は先日、母親をがんで亡くしたばかりです。ですから、がんや死にまつわる諸々のことはわかっているのです。気を使いながらも、サバサバとした会話が、トキには心地良く感じました。本当に温かい親友です。今年1月のガンズ・アンド・ローゼス大阪公演をはじめ、共にヘビーメタル&ハードロックのファンとして何度も一緒にコンサートに行った仲です。これからも一緒に行かねばなりません。そして…

この日の深夜、心臓を掴まれるような出来事がありました。

病院のスタッフが慌てて行き交うような足音と、泣き叫ぶ女性の声が廊下に響きました。

自分と重ねることを避けるように、両手で必死に耳をふさいだのは、トキだけではなかったことでしょう。

⇒ 023：あり得たこと。